4 アカデミック・ライティングの手順

ここからは，初年次ゼミナールや授業で課せられる「○○について述べよ・論ぜよ」といったレポートをアカデミック・ライティングで仕上げるための手順を解説する。

1. 課題を分析して，「問い」と仮の「答え」の形式に直してみる。
2. 疑い深く調べて，「答え」とその根拠情報を探す。
3. 情報を整理して，アウトラインを練る。
4. パラグラフ・ライティングにより各部分を書く。
5. 文章を推敲して，明解に読みやすくする。
6. 文書の書式を整えて，最終チェックして提出する。

> 実験・実習のレポートや卒業論文で要求されることは分野によって千差万別なので，それぞれ担当教員や指導教員の指示に従う必要がある。

4.1 課題を分析する

レポート課題が「○○について述べよ・論ぜよ」式の場合は，より具体的な「問い」と「答え」の形式に直してみるべきだ。「その課題では何が求められているのか？」「教科書やノート，授業中の話にヒントはないか？」と考える。

この「問い」の良し悪しがレポートの出来を左右する。冒頭で述べたように，学問は「問う」ことから始まる。良い「問い」を設定することが重要である。間違った「問い」に正しい「答え」はあり得ない。分野にもよるが，「レポートでは，先行研究をまとめて，それに対する良い問いを引き出すことに努力を傾注すべきである」と指導する教員もいる。

具体的な例で説明しよう。「鳥類の呼吸について述べよ」というレポート課題では，「他の脊椎動物と比べた鳥類の呼吸の特徴は何か？」という「問い」を設定して，「肺以外に気嚢（きのう）を持ち高効率のガス交換をしている。」をとりあえずの「答え」とする。

> レポート課題が「○○について述べよ・論ぜよ」式ではなく，もう少し具体的な「問い」である場合は，このステップは省略できるが，これ以降の手順は同じである。

「問い」ととりあえずの「答え」を考えついたら，次はその「問い」を膨らませる。先程の例の場合では，「気嚢の構造は？」「気嚢の機能は？」「鳥類の肺は哺乳類の肺と何が違う？」「気嚢があるとガス交換の効率がなぜ高い？」「爬虫（はちゅう）類の肺からどのように進化したのか？」「全ての鳥類に気嚢があるのか？」「他に気嚢を持つ動物はあるか？」と思いつくままに，「答え」を考えつかないものも含めて，いろいろな「問い」を様々な観点から挙げてみる。そして次のステップに進む。